

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	埼玉県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	鶴ヶ島市立南小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	4		19	26
児童数	83	107	88	98	106	122		604	

研究の概要

1. 研究主題

基礎基本の確実な定着と生きる力の育成を目指した教育課程の工夫

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

指導体制の工夫(全学年)・習熟度別指導の工夫(3年以上:算数)の研究に取り組んでいるため全学年教科を定めて研究している。

1年生・国語・算数・音楽・生活	TT指導
2年生・図工・音楽・生活	TT指導・イメージの獲得についての指導法
3年生・算数・理科・体育・総合	習熟度別指導・興味関心別指導・コース別指導
4年生・算数・体育・総合	習熟度別指導・興味関心別指導・コース別指導
5年生・算数・体育・総合	習熟度別指導・興味関心別指導・コース別指導
6年生・算数・理科・社会・書写	課題別指導・教科担任制
・家庭・総合	習熟度別指導・興味関心別指導・課題別指導
	教科担任制・コース別担当制・分野別担当制

(2) 年次ごとの計画

平成15年度

テーマ「基礎基本の確実な定着と生きる力の育成を目指した教育課程の工夫」
研究の見通し
本校では、「確かな学力の向上」と「心の教育の充実」の一体化を図ることで、学習指導要領のねらいが実現でき、児童一人ひとりに生きる力が育成できると考え、下記の構想図のもと研究を進めて平成15年度は、指導体制の工夫に重点を置きながら教材開発・評価についても研究に取り組んでいる。

生きる力

豊かな心 — 確かな学力 — 健康・体力

発展・発展の学習、補充の学習

基本・指導方法、指導体制の工夫

基礎・学び方を学ぶ、スキル学習

基盤・イメージの獲得

研究の内容・方法

内容 (1) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫
少人数指導・習熟度別指導の工夫、教科担任制の工夫

(2) 個に応じた指導のための教材開発
発展・補充の学習ができるように児童の実態をもとにした学習プリントの作成

(3) 目標、評価規準の明確化
各教科等単元・題材の小単元ごとのさらに細かい評価と指導の計画を作成

* 上記の中でも、15年度は特に指導体制を研究の重点にした。
 指導体制の工夫
 1 教員の得意分野を生かした指導体制
 教科担任制・コース別担当制・分野別担当制
 2 少人数指導の工夫
 習熟度別指導・課題別指導・興味関心別指導・TT指導

* 教科担任制が可能になるように日課表の工夫を行い、30分を基本単位として30・45・60・90分の授業時間が弾力的に組めるような日課表にした。

方法(1) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫
 研究推進組織の指導法改善部会・学年部会が中心となり、学年ごとに各教科で指導体制の工夫を行っていった。それぞれの学年の研究内容は、研究授業を通して学校全体で深めるようにした。

(2) 個に応じた指導のための教材開発
 研究推進組織の教材開発部会が中心となり、学年ごとに平成14年度作成したプリントを見直し、今年度の児童の実態に基づいて1枚15分程度でできる問題のプリントを作成した。各学年それぞれの教科40～50枚作成。校舎2階廊下にプリントコーナーをつくり、児童・保護者が自由に持って行かれるようにした。

(3) 目標、評価規準の明確化
 研究推進組織の評価部会が中心となり、各教科等を教職員全員で分担し、小单元ごとに評価規準とその評価方法、支援を明記した年間指導計画を作成した。30分を基本単位とした日課表にも対応するように授業内容も組み立てた。また、カード式とし、加除訂正した場合差しかえがしやすいようにした。また、評価補助簿、児童の自己評価カードの内容・形も工夫した。

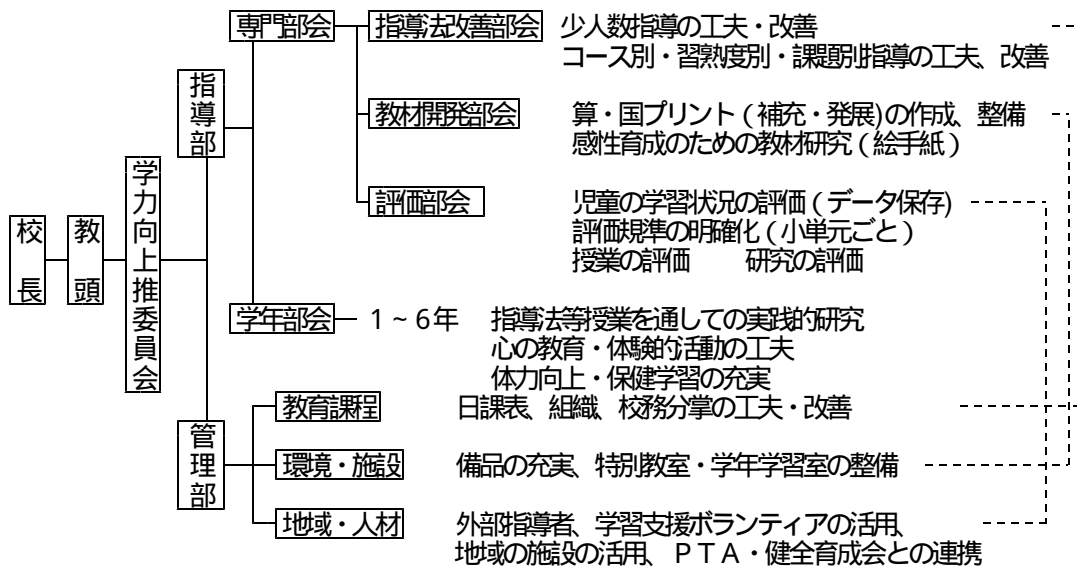
平成16年度

テーマ「基礎基本の確実な定着と生きる力の育成を目指した教育課程の工夫」

研究の見通し
 15年度に多様な指導体制を工夫してみたので、16年度は指導方法の工夫を一層深めていきたい。

研究の内容・方法
 習熟度別等の少人数指導の指導の方法の研究を学年部会を中心に深めていきたい。
 また、教員の得意分野を生かしたコース別担当制・分野別担当制の指導方法について研究を深めたい。

(3) 研究推進体制



<工夫していること>

会議の回数を減らすため、指導部と管理部の内容で関連している部(指導法改善部会と教育課程、教材開発部会と環境・施設、評価部会と地域・人材)を結びつけ、同じメンバーが行うようにした。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 教科担任制・コース別担当制・分野別担当制

教員の得意分野を生かした指導体制を組むことで教員の専門性が生かされるとともに、同じ単元を数クラスに何回も繰り返し指導することで工夫改善を行うことができ指導技術の向上につながった。その結果、児童の学習に対する興味・関心が高まり学習に深まりが見られるようになってきた。

各学級担任が学年担任であるという意識のもと、学年全体の児童を指導することで生徒指導上の情報交換が活発になり、学習面だけでなく生活面でもよい影響が出てきた。

一人の児童に対して複数の教員が指導に関わることで、児童を多面的に見ることができ、その児童のよさを引き出し、個に応じた指導ができるようになってきた。

(2) 習熟度別指導・課題別指導・興味関心別指導・チームティーチング

個に応じた指導によって、児童は意欲的に学習に取り組むようになった。また自分でコースを選択することで、児童に自己決定の力を養うことができてきた。学習集団が少人数のため、児童一人ひとりの理解度・定着度が把握しやすく、個々に対応して基礎基本をしっかり身につけられるように支援できるようになった。

2. 今後の課題

来年度は、習熟度別指導等の少人数指導を生かした指導方法について一層研究を深め、授業改善を進めていきたい。また、児童に身につけさせたい力を発達段階に即してより一層明確にして、共通認識のもと児童の学力向上を目指したい。

学力等把握のための学校としての取組

・人間地区学力調査(算数・国語)(2～6年)

調査目的：学力を調査し、教科の学習指導の基盤とするとともに、地域の他の学校と自校の学力を比べることで授業改善に役立てるため。

実施内容：前の学年の指導内容全域

実施時期：4月

・標準学力検査・知能検査(教研式)(3年・5年)

調査目的：きめ細かい指導をするために児童の知的発達の状況を把握すると共に前年までの指導方法が有効であったか、全国規準に照らして客観的に確認し、指導方法の改善に役立てるため

実施内容：前の学年までの指導内容

実施時期：5月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<研究会等の開催について>

・公開授業研究会 平成16年2月13日 自校において

埼玉県西部地区学力向上推進協議会主催による研究会

埼玉県西部地区の学校を対象に本校の取り組みの実践・成果の普及のために行う。

同時にパンフレットを作成し配布

* 今後HPを作成して普及していく予定

<フロンティアティーチャーとしての実績・予定>

・平成15年12月5日毛呂山町立泉野小学校にて本校の取り組みについて説明

・平成16年2月19日伊草町立三保谷小学校に本校の取り組み説明予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他(総合)
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無